広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム　派遣留学報告書

	記入日　平成　26 年　7 月　11 日
所属学部・研究科	教育学部　2 年次（留学開始時点）
留学先大学	マラヤ大学　（国名：　マレーシア　）
所属学部・学科等名	教育学部　TESL Program
在籍身分	交換留学生
留学期間	平成　25 年　9 月　1 日～　平成　26 年　6 月　30 日

1．渡航について

ビザについて	ビザの種類：　学生ビザ
	ビザ申請先：　提携先大学内ビザユニット
	取得方法，提出書類：　到着後すぐ VDR を申請する。1 ヶ月程かかるが、VDR 取得後 VISA を申請すれば、2 週間かからずに取得することができた。
	手続きに要した日数：VDR 約 1 ヶ月・VISA 約 2 週間 (計 1 ヶ月半)
その他必要な事前手続き	
出国年月日	平成　25 年　8 月　31 日
経路	直行便　大阪・関西国際空港着
現地での出迎え	無
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	1 日のみ。到着後、次の日に留学生全員で行われた。学内の様子をみたり、ルールを教わったりした。
帰国年月日	平成　26　年　7 月　2 日
経路	直行便　大阪・関西国際空港着

2．留学経費について

所要経費	総額			円
	内訳	渡航費		円
		保険料		円
		教科書代(学費)		10,000 円
		宿舎費		135,000 円
		食費		200,000 円
		その他（登録・学内バス費）		20,000 円
		（　　費）		円
		（　　費）		円

3．授業について

2 年　1 学期	9　月　2　日　～　12　月　20　日

2年　2学期	2　月　17　日　～　6　月　1　日
年　学期	月　日　～　月　日
年　学期	月　日　～　月　日
授業の概要について（カリキュラム，プログラム等)	TESL (Teaching English as a Second Language) 日本の英語教育よりハイレベルな、英語を第二言語とした者への教育学です。
単位互換希望の有無	□有
学術面に関する後輩へのアドバイス	アカデミックな英語、コミュニカティブな英語、両方が必要とされます。TESL に関する基礎知識もあればなお良いかと思います。

４．生活等について

（1）留学先の住居について

住居の種類	□大学の寮		
住居の広さ	約　9畳	同居人の有無	□有（　1人）
住居に附属する設備	□電気　□水道　□給湯　□シャワー □水洗便所　□台所　□食堂 □インターネット　□その他（　）		
住居費	１ヶ月当たり　450RM　(現地通貨)	約　15,000　円	
住居を決定した方法	□留学先大学の紹介		
留学先での住居全般に関するアドバイス			

（2）医療について

１日以上入院を要する病気・怪我等を	□しなかった
入院した場合	により　日入院
留学に当たり保険を	□掛けた
掛けた場合	□日本
掛け金は	年間　円 補償額　死亡　円，入院１日　円 その他（　）
留学前後での予防接種の必要の有無	□無
有の場合，その種類，回数，費用，受けた医療機関名	
日常的な健康について不安が	□なかった あった場合その理由：
留学先国の医療事情（日本と比較して）	さほど差は感じられない

留学先での健康管理，衛生面について特に注意すべきこと	マラリアになる可能性があるので、虫よけスプレーを購入するとよい。

（3）危険を感じた地域，状況

（4）その他生活等に関して参考となる事項

5．帰国後の進路について

卒業予定年月	平成　29 年　3　月　（当初の卒業予定年月　平成　28　年　3　月）
卒業が遅れる見込みの場合，その理由	その他（具体的に　教育実習参加のため　）
現在の状況および今後の予定・進路等	広島大学に再び在籍。
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	留学前に介護実習等を修了。留学後の空いた期間を用いて、現地にてインターンシップ。

6．留学準備，留学中に役立った書籍，ウェブサイト等

書籍，サイト名	詳細（出版社，URL 等）	コメント

7．自由記述（後輩へのアドバイス等）

学習の概要に関するレポート

東南アジアに初めて留学する予定だったので、不安でいっぱいでした。到着初日にオリエンテーションがあり、授業内容や学部の説明を受け、自分がとりたい授業を登録するところから始まりました。本当は出発前から授業登録の申請を行っておくのですが、マレーシアでイレギュラーはつきもので、ほぼ間違いなく申請した授業すべてをそのままとれるということはありません。なので、時間帯がかぶっている授業や人数制限のある授業などを取り消して、再履修という形になります。授業登録、再履修期間が約２週間設けられるのですが、それ以降は何があっても変更、追加はできません。取り消しは１ヶ月以内であれば可能とのことでした。

授業が始まり、まず一つ目に感じたのが生徒数の違いです。自分の属している学部によって多少の変化はありますが、マレーシアではレクチャー授業をとらない限り、授業は少人数制となっています。なので、生徒と先生間でのコミュニケーションを取る機会が日本の授業に比べて非常に多く、会話力が格段に向上します。アクティビティの内容としても、グループディスカッション、プレゼンテーションなど実践的なことが多く、日本の授業のように「先生が言ったことを、文字通りノートに書き残し、それを家で復習する」といったようなことは一度もありませんでした。

もう一つ気づいたことは、マレーシアの教授は絶対に課題を前もって用意しないということです。日本の場合は私が感じたかぎりでは、教授が授業前に前もって用意しておいたプリントなどを持ち帰り、それを期限までに提出するということが基本ですが、マレーシアの場合、教授と生徒間での質問の投げかけ、回答を十分に行ったあと、教授の方が最重要ポイントだと思う箇所をピックアップし、それをエッセイ方式、または自分たちで調べさせたものを次回持参するというのが主流でした。なので、試験でも一つしかない答えを直接聞くような質問内容は絶対になく、質問に対していかに自分が勉強・用意してきたことに関連付け、それをアピールできるかが高得点をとるための秘訣でした。

マレーシアという、英語が第２言語の国での留学生活でしたが、生徒個々の語学能力も非常に高く、学習指導要領も日本に比べ効率的だったように感じます。語学学習面においては、確実にマレーシアの教育が実用的で優っていると感じたので、教育者になる身として今回学んだことを日本の教育に反映していければ良いなと思います。

生活の概要に関するレポート

マレーシアに早朝５時に到着したので、迎がまだ到着していませんでした。東南アジアは人生初めてだったので少し不安もあったのですが、少し冒険してみようと思い自分の足で行くことにしました。タクシーも使っていったのですが、やはり日本人だと高い値段を要求されます。始めバスがKL Sentralに到着してもタクシーはそこで乗らず、少し歩いて離れたところで乗った方が安いということには数日たってから気づきました。ですが、物価は基本的にすごく安いです。日本と比較すれば約３/１ですので、よほど無駄遣いをしない限り余裕をもって暮らせる感じでした。

マレーシアの人々はみなフレンドリーで、道などを聞けば優しく教えてくれます。しかし、ほとんどのマレー人は確かな情報を持っていないため、よく嘘の情報を適当におしえてきます。悪気があってそうしているのではないことは彼らの人相からわかるのですが、それでも知らないのなら知らないとはっきり言ってほしいと感じました。

私がマレーシアに来て、一番腹立たしかったことが彼らのオフィスワークです。大学で授業の申請が完了したにも関わらず、一度授業に行ってみるとその授業が実はとれていなかったり、教室の情報が違ったりとすごくいい加減なものでした。マラヤ大学のオフィスは本当にいい加減だなと思い始めていたころに、ちょうど外に出る機会が多く病院でメディカルチェックなどをうけていたのですが、どうもマラヤ大学だけの問題ではないようでした。マレーシア全体を通して、オフィスの人たちはあまり働こうとせずに座って自分たちの携帯を触る、又はフェイスブックを更新するなどといった、日本人の私たちには考えられないような職務態度でした。これも文化の違いなのだと自分になんども言い聞かせたのですが、どこの国のどんな大学からきている学生でも一度は必ず憤慨していました。相当な忍耐が必要でしたが、「自分で行動しなければ始まらない。ここでは誰も助けてくれない」ということに気づき、自ら行動するようになりました。

熱帯気候なので、フルーツなどがとてもおいしいマレーシアですが、他にもたくさん良い面があるのでマレーシアに留学にいけてよかったなと思います。生活面においては、マレーシアは今までいったなか国々のなかで一番すごしやすかったです。